

まちなかの活性化に向けアイデアを募集

平成32年度に市庁舎・市民交流施設を整備

西脇市では、カナート西脇跡地に市庁舎と市民会館を一体的に整備することとし、平成32年度の完成に向けて事業を進めています。市庁舎等の移転をきっかけとして、新たなにぎわいを生み出すため、現在、市民の皆さんとともに「西脇市まちなか活性化計画」の策定を進めています。市のにぎわいづくりに向けて、市民の皆さんのアイデアをお寄せください。

■問合せ 新庁舎建設室（市役所内線365）

新庁舎等の整備に当たって

西脇市では、市庁舎と市民会館の移転をきっかけとして、新たな交流とにぎわいの創出を目指しています。

現在は事業の具体化に向けて、新庁舎等の施設の規模やレイアウトなどを検討する基本設計業務と、西脇市のまちなかの活性化を図るための「西脇市まちなか活性化計画」の策定を進めています。

市の中心市街地にふさわしいまちなかの実現に向けて

本市の中心市街地「まちなか（＝西脇地区、上野、下戸田、和布町の一部）」には、

西脇病院やアピカ西脇などの公共施設だけでなく、金融機関や商業施設等の都市機能が多く集まっています。一方で、大型商業施設の撤退や人口減少による空き家増加など、さまざまな課題が生じています。そうした中、市民生活に欠かせない都市機能が多く立地するまちなかの活性化を図り、まちの魅力を高めていくことが必要です。そこで、市では、平成28年度からまちなかの活性化に関する方向性や、必要な施策について検討を進めてきました。平成29年度には、市民ワークショップなどを開催し、市民意向を反映して計画を取りまとめる予定です。

まちなか未来ワークショップ

市民の皆さんや西脇市への来訪者が魅力を感じるまちなかを目指して、市民の皆さんの参画のもと、今年6月から「まちなか未来ワークショップ」を開催しています。ワークショップには、公募の市民の方をはじめ、中心市街地にお住まいの方、商工会議所や西脇TMOの代表者、西脇ファシオン都市構想で西脇市へ移住された若手デザイナー研修生など、約30名の方が参加しており、まちなかの活性化に向け、地域資源を活かしたアイデアについて議論しています。



▲中心市街地の活性化について議論する「まちなか未来ワークショップ」



▲西脇高校生活情報科での授業

未来を担う若者が考えるまちなかの未来

西脇高校生活情報科の生徒たちが、「生活産業とマーケティング」の授業で、まちなかの活性化について考えました。生徒たちは授業で、まちなかを活性化するためのアイデアを発表し、高校生らしい前向きで斬新なアイデアがいくつも提案されました。生徒たちは考えたアイデアをさらに磨き上げ、市に提案する予定です。また、本市と包括連携協定を締結する関西学院大学で都市財政論を専攻する学生たち

は、西脇市のまちなかでフィールドワークを実施。授業で本市の調査研究に取り組み、今年7月に成果を発表しました。

学生たちは、外部の視点で「若者が帰ってきたくなるまち」や「市外から訪れたいくなるまち」を目指して、空き家の活用や空き地のポケットパーク化などを提案しました。



今後のスケジュール

平成32年度末の市庁舎等の完成に向けて、設計や事業手法の検討を進めています。民間施設導入の可能性について調査を進めており、調査結果を踏まえて、整備手法、具体的な施設について決定したいと考えています。

また、今秋以降にカナート西脇跡地の既存施設解体工事に着手予定。新庁舎等の完成後に、市役所機能を新庁舎へ移します。

アイデアをお寄せください

11月30日(木)まで

西脇市では、新庁舎の整備やまちなか活性化計画の策定に当たって、市民の皆さんからまちなかににぎわいを生み出すアイデアを募集しています。いただいたアイデアは市で検討の上、計画策定に活用します。

■提出方法

住所、氏名、電話番号、アイデアを記載（アイデア以外の記載は任意）し、下記へ郵送、ファックス、電子メール、または市役所本庁や図書館、総合市民センター、生涯学習まちづくりセンターにある「御意見箱」へ投函し提出してください。



▲御意見箱

■提出先

〒677-8511
西脇市郷瀬町605
西脇市新庁舎建設室まちなか活性化計画担当
FAX 22-1014
✉ chousha@city.nishiwaki.lg.jp

■問合せ

新庁舎建設室（市役所内線365）

《これまでに提案いただいたアイデア》

- ・リノベーション、アンティーク、レトロなど、西脇にしかない地域資源を生かして、面白くて懐かしくおしゃれな感性のまちづくりをする。
- ・「田舎は遅れている」というイメージを変えるために、西脇にしかないもので流行を作ったり、西脇へ来ないと手に入らないものを作る。
- ・SNS(会員制交流サイト)などで発信したくなるまちを目指して、アートのまちづくりをする。⇒例えば、まちなかの空き家を活用して、アーティストの創作の場や個展の場を作る。
- ・市の活性化につながるイベントを開催できるスペースや、茜が丘複合施設「Mirai」のような市民が集えるスペースを作る。
- ・まちなかの空き家や空き地を活用して、バルやカフェ、チャレンジショップなどの場を作り、にぎわいを生み出す。